

金襴緞子の
花嫁御寮は
文金島田に
花嫁御寮は
姐さんごっこ
赤い鹿の子の
泣けば鹿の子の
涙で鹿の子の
泣くに泣かれぬ
赤い鹿の子の
帯しめながら
なぜ泣くのだろ
髪結いながら
なぜ泣くのだろ
花嫁人形は
振袖着てる
袂がぬれる
赤い紅にじむ
花嫁人形は
千代紙衣裳

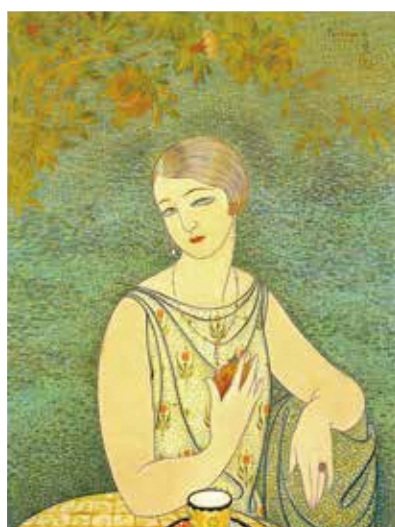


「花嫁」(1968年)

名作を知る。
名品と出会う。

落谷虹児記念館 コレクション展

—「花嫁人形」歌碑建立60周年を記念して—



「柘榴を持つ女」(1927年)



「薔薇と少女」(1968年)



「パリジェンヌ」(1928年)

2026 10.6 (火)
|
2027 1.24 (日)

開館時間／午前9時～午後5時(入館券の販売は午後4時30分までとなります。)
休館日／月曜日(祝日の場合は開館し、翌火曜日を振替休館といたします。)
入館料／一般・大学生550円(有料入館者20名様以上は団体料金440円)、
高校生230円、小・中学生120円
※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(受付で手帳をご提示ください。)
主催／新発田市、新発田市教育委員会、落谷虹児記念館

—「花嫁人形」歌碑建立60周年—

落谷虹児は、大正から昭和にかけて抒情画家・詩人として活躍し、「花嫁」
「花嫁人形」をはじめ数多くの名作を生み出しました。

本年は「花嫁人形」歌碑建立60周年という記念すべき年にあたります。これ
を記念して、歌碑建立に関する資料や当時の写真・記録などを展示し、「花嫁
人形」が作品から地域の文化へと広がっていった歩みを振り返ります。

また、本展では、落谷虹児の代表する作品に加え、これまで紹介する機会の
少なかった館所蔵作品や近年新たに収蔵した資料を公開し、落谷虹児の新たな
魅力を紹介します。名作をあらためて見つめるとともに、まだ知られていない
虹児との出会いを楽しんでいただく展覧会です。代表作だけでは語り尽くせない
落谷虹児。コレクションの奥深さを体感していただければ幸いです。



「花嫁人形」歌碑

新潟県新潟市中央区西堀通 7番町イタリア軒脇

～詩歌「花嫁人形」に添えられたさし絵～



「少女の友」(1951年)



「童謡画集」(1960年)



詩画集「花嫁人形」
(1935年)



直筆原稿



詩画集「悲しき微笑」
(1924年)



「令女界」
(1924年)



詩画集「花嫁人形」
(1935年)



「新潟日報(夕刊)」
(1966年)での連載
が反響を呼び、歌碑
建設のきっかけと
なった自伝小説「花
嫁人形」。
(1967年に書籍化
された。)

名作を知る。

名品と出会う。

精緻な技が光るペン画



「海つばめ」(1942年)

かわいらしい童画



「したきりすずめ」
(1962年)

心温まる抒情画



「蒲原」(1972年)

気迫と力強さを感じる
戦争画



「天兵神助」
(1943年)

日本と西洋の融合が
モダンなタブロー画



「混血児とその父母」
(1926年)



「巴里の散歩」
(1926年)



「すずのへいたい」
(1942年)



「夕暮れ」(1966年)

売店にて
落谷虹児グッズ
販売中!



KOJIFUKIYA MEMORIAL MUSEUM OF ART

落谷虹児記念館

〒957-0053 新潟県新潟市中央区中央町4-11-7
電話 0254-23-1013



記念館全景